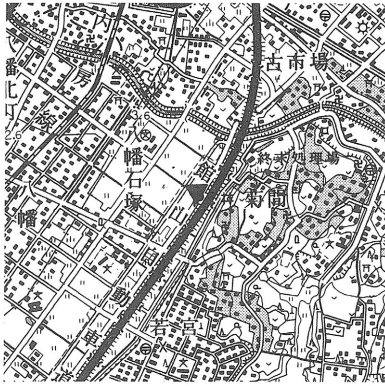


千葉・市原条里制遺跡 (実信地区)

いちほらしじょうりせい
さねのぶ

- 1 所在地 千葉県市原市菊間字実信
- 2 調査期間 下層本調査 一九九〇年(平2) 六月～一九九一年三月
- 3 発掘機関 (財)千葉県文化財センター
- 4 調査担当者 柴田龍司ほか
- 5 遺跡の種類 貝塚・水田跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代・弥生時代、古代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

市原条里制遺跡実信地区は、市原市北西部に広がる標高約5mの



(千葉)

沖積平野に立地している。

調査の結果、縄文時代後期の貝塚、弥生時代中期の溝、古代から近世にかけての水田が検出された。このうち古代から近世にかけての水田は、一部が市原地区検出の条里型水田と主軸方向や規格が一致しているものと

考えられる。

古代以降の遺物は水田耕土中から出土したもので、耕作によって細片化しているものの、土師器・須恵器・灰釉陶器・青磁・中世陶器など種類は豊富である。また、近接する八世紀初頭の寺院である菊間廃寺で使用された瓦類も出土している。なお、同じ市原条里制遺跡の市原地区から、「□□米五斗」の記載をもつ付札木簡が出土している(本誌第一二二号)。

今回報告する木簡は、下層(貝塚)本調査時に排土中から発見されたもので、明確な年代は決定し得ない。

8 木簡の积文・内容

(1) □ □ □ □

□ □ □ □

(40)×16×3 081

柾目材で上下両端が欠損している。表裏両面に墨痕が認められ、赤外線テレビカメラ装置による観察を行なったが、それぞれ三文字程度の文字が想定されるものの、判読には至らなかった。

9 関係文献

(財)千葉県文化財センター『市原市市原条里制遺跡』(一九九九年)

(大谷弘幸(千葉県立中央博物館))

